

|       |    |       |      |          |           |
|-------|----|-------|------|----------|-----------|
| 14    | 岡崎 | 岡崎小学校 | 氏名   | ミナミ<br>南 | サクラ<br>彩位 |
| 分科会番号 | 20 | 分科会名  | 総合学習 |          |           |

## 1 研究テーマ

危険を予測・判断し、自ら命を守るとともに、安心・安全な社会づくりに主体的に参画する児童の育成  
～地震防災教育を通して～

## 2 研究概要

### (1) 主題設定の理由

近年、全国各地で大規模な地震が相次いで発生している。また、今後30年以内に高い確率で発生するとされる南海トラフ地震では、広範囲にわたる被害が想定されており、愛知県においても大きな影響を受けることが予測されている。このような状況の中で、災害から命を守るためには、防災に関する知識や技能を身に付けるだけでなく、状況に応じて危険を予測・判断し、自ら適切に行動する力を育むことが重要である。学校では避難訓練などの防災教育が行われているが、あらかじめ決められた手順に沿って行動する活動が中心となりやすい。予測できない災害に対して自ら考え、判断し、行動する力を育成する機会は十分とは言えない。また、災害は学校だけではなく、様々な場面で発生する可能性があるため、児童一人一人が身近な環境に潜む危険に目を向け、防災を自分事として捉えることが求められる。本学級の児童は、防災に関する言葉については一定の知識はあるものの、有事の際での生かし方については十分に考えられていない様子が見られた。また、「大人が指示してくれるから大丈夫」という受け身の姿勢も見られ、自ら危険を予測し、主体的に判断する意識には個人差がある。そこで本実践では、地震の仕組みや過去の災害について学ぶだけではなく、被災者の体験談を聞く活動や起震車による地震体験、校内外の危険を調査するフィールドワーク、防災マップの作成、脱出型避難シミュレーションなど、体験・探究的な学習を取り入れる。これらを通して児童が地震災害を自分事として捉え、状況に応じて危険を予測・判断し、自ら命を守る行動に繋げるとともに、地域の安心・安全な社会づくりに関して主体的に考え、参画しようとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

### (2) 目指す児童の姿

被災時に起こり得る課題を見だし、命を守るためのよりよい行動について考え、追究できる児童  
他者と協働的に取り組み、異なる意見を生かしながら、未知な状況に対して乗り越えようとする児童

### (3) 研究の仮説と手立て

#### 〈研究の仮説〉

地震防災に関する体験的な学習を通して災害を自分事として捉えさせるとともに、身近な地域を教材とした探究的な学習を通して危険を予測・判断し、課題解決にとりくむ活動を取り入れることで、児童は自ら命を守る行動力を身に付けるとともに、安心・安全な社会づくりに主体的に参画しようとする態度を育むことができるだろう。

#### 〈手立て1〉

ねらい…地震災害の恐ろしさや命の大切さを実感し、「もし自分だったら」という視点をもたせ、防災への当事者知識を高める。

#### ア 地震災害の仕組みや被害について学ぶ

個々で疑問に思ったことを調査し、スクールタクトの「防災辞書」にまとめ、ポートフォリオ化する。

#### イ 過去の大地震について知る

個々で疑問に思ったことを調査し、スクールタクトの「防災辞書」にまとめ、ポートフォリオ化する。

#### ウ 地震によるけがや応急処置について学ぶ

養護教諭と共に、身近なものでできる応急処置を実践する。

#### エ 熊本地震・能登半島地震の被災者講話

熊本地震被災者とオンラインでインタビューを行う。能登半島地震被災者（本校職員）とインタビューを行う。

#### オ 起震車体験

岡崎市防災課に協力を仰ぎ、起震車で震度2～7の揺れを実際に体験する。

#### カ 脱出型避難シミュレーション・避難所シミュレーション（2学期以降）

予測困難な状況において児童のみで判断し、避難できるか。また、避難所の困難を体験する。（2学期以降）

#### 〈手立て2〉

ねらい…学校や地域に潜む危険を自ら見つけ、調査・分析・発信する活動を通して、安全な社会づくりへの参画意識を高める。

#### キ 校内危険箇所調査

校内（校舎内・運動場・体育館など）危険箇所を予測し、写真撮影をする。

#### ク 校内防災マップ作成

危険箇所や避難ルートを理由とともにコラボノートに明記し、グループごとに作成をする。

#### ケ 校外危険箇所の予測（2学期以降）

GoogleearthやGooglemapを用いて、学区の危険箇所を理由とともに予測しまとめる。

コ フィールドワーク（２学期以降）

学区を歩き、危険箇所（石垣・看板・道路・屋根など）を写真撮影する。

サ 学区防災マップ作成→校内や地区へ発信（２学期以降）

危険箇所や避難ルートを理由とともにコラボノートに明記し、グループごとに作成をした後、学校や地域へと発信

#### （４）抽出児の選出

より具体的に考察をするために、児童Ａと児童Ｂを選出した。

〈児童Ａ〉

自ら課題を見だし、必要な情報を収集・整理しながら深く考察する力に優れている児童である。また、物事を冷静に捉え、落ち着いて判断することができる。一方で、未知の状況や正解のない課題に対しては、一人で解決しようとする傾向がみられるため、仲間と対話し、協働しながら課題を解決していく力を育成したい。

〈児童Ｂ〉

他者の考えや思いを受け入れ、周囲と協力しながら活動に取り組むことができる児童である。一方で、未知の状況や正解のない課題に対しては非常に消極的で、周りに頼ろうとする傾向がある。そのため、得た知識を理解・定着させ、実際の生活や様々な場面で活用できる力を身に付けさせたい。

### ３ 単元について

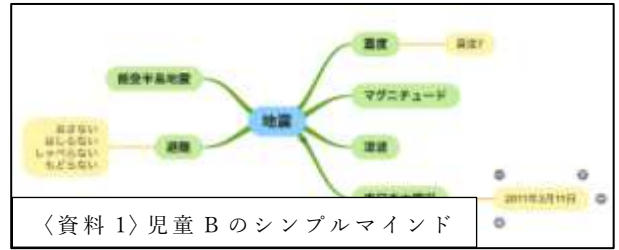
| 学 習 課 題                        | 学 習 内 容                                                                                                                                                  | 時間 |            |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------|
| 地震で被災したときに、自分達には何ができるのだろうか     | 【課題の設定】<br>・地震についての既存知識と現実を比較することで、ずれや隔たりに気づき、問題意識を高める。                                                                                                  | 1  | 一学期        |
| 課題を解決するために、どんな知識が必要だろうか        | 【情報収集】<br>・地震の仕組みについて調べ学習をする。<br>・地震による被害について調べ学習をする。<br>・身の回りのリスクに気付くために、校内の危険を探し、撮影する。<br>・命を守るための初動や、救命活動等を学習する。                                      | 6  |            |
| 集めた情報を基に、自分達にできることを伝えよう        | 【整理・分析】【まとめ・表現】<br>・校内オリジナル防災マップを作製する。<br>・第7時までに学習したことをポスター、動画、プレゼンテーションなどでまとめる。                                                                        | 5  |            |
| 学習したことは、実際の揺れの中で生かせるだろうか       | 【課題の設定】<br>・起震車で実際の地震の揺れを体験する。<br>・平成28年4月に発生した熊本地震、令和6年1月に発生した能登半島地震の被災の体験談を聞いたり、インタビューをしたりすることで、習得してきた知識や情報の不足を実感し、新たな課題を設定する。                         | 3  |            |
| 課題を解決するために、さらに必要な知識は何だろうか      | 【情報収集】<br>・設定した課題を基に、さらに追究したいことについて調べ学習をする。                                                                                                              | 2  |            |
| 身に付けた知識を使って、チームで安全に避難できるだろうか   | 【整理・分析】【まとめ・表現】<br>・情報収集の段階で得た知識やオリジナル防災マップなどの作成物を基に、脱出型避難シミュレーションを行う。                                                                                   | 1  |            |
| 地域のために、自分達にできることは何だろうか         | 【課題の設定】<br>・避難シミュレーションの振り返りから、新たな課題を設定する。<br>・地域へ焦点を当てられるよう、学区の危険を探し、撮影する。<br>・被災後の生活の困り感に焦点を当てられるよう、体育館で避難所シミュレーション（スペース分けや役割分担）を行う。                    | 4  | 二学期以降（未実施） |
| 課題を解決するために、必要な知識は何だろうか         | 【情報収集】<br>・区画整理が行われている学区の被害軽減のための工夫を調べ学習する。<br>・設定した課題を基に、さらに追究したいことについて調べ学習をする。                                                                         | 2  |            |
| 未来の誰かや、地域の方々を守るために、学習したことを伝えよう | 【整理・分析】<br>・学区オリジナル防災マップを作製する。<br>・第22時までに学習したことをポスター、動画、プレゼンテーションなどでまとめる。<br>【まとめ・表現】<br>・単元全体で学習したことを、授業参観で保護者に伝えたり、10月11日（日）岡崎市地域総合防災訓練で発表したりする場を設ける。 | 6  |            |

## 4 研究の実践

### 【課題の設定】

#### ①東日本大震災の映像を視聴し、既存知識とのずれや隔たりを実感することで問題意識を高める

第1時では、児童達に予告なしで訓練用の地震速報を流した。混乱しながらも、児童達は机の下に潜り、「怖い!」と言いながら教師の指示を待った。机の下に潜った理由を尋ねると、「頭を守らなきゃいけないと言われているから。」と答えた。また、「おはしもは守れた?」と問うと、「怖いとか、何何?」など話してしまった。」と答えた。このことから、正しいとされている初動を行う理由が理解できていないこと、避難訓練と分かっていたら守れることも、



〈資料1〉児童Bのシンプルマインド

いざという時には守れない可能性があることを児童は体験した。また、「シンプルマインド」を用いて、地震について知っていることを自由に出し、既存の知識を共有した。〈資料1〉その後、東日本大震災の映像を視聴した。児童は揺れる時間の長さや強さ、被害の深刻さに驚き、「震度6強がこんなに大きな地震になるとは思わなかった。」「この中で助かるためにはどうしたらいいのだろう。」と話していた。そこで、「自分達の今ある知識を使って、本当に安全に避難ができるか。」という視点から話し合いを行い、災害時に自分の命を守るためにはどのような知識が必要なのかを考えさせた。その結果、「地震が起きた時の正しい避難方法」「友達が目の前で怪我をしたらどうしたらいいのか」「避難経路が通れなかった場合」など今後の学習に繋がる課題が児童から挙げられた。そして、「地震で被災したとき、僕らに何ができるだろうか」をテーマに、1年の活動を進めることが決まった。

### 【情報収集】

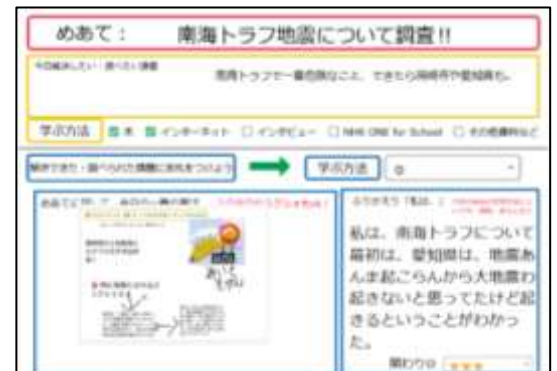
#### ②地震の仕組みについて調べ学習をする〈手立て1ア〉

地震による被害を減らすためには、まず「地震とは何か」を理解することが必要であると考え、インターネットや書籍を活用した調べ学習を行った。児童達はプレートの動きや断層のずれによって地震が発生すること、海底で起きた地震が津波に繋がる場合があることなど、自分が調べた内容をスライドにまとめた。また、個人で調べた内容をクラス全体で共有できるよう、スクールタクトに「防災辞書」を作成した。児童は友達の資料を閲覧しながら、自分では調べていなかった内容や異なる視点の情報を取り入れ、知識を広げることができた。〈資料2〉例えば、児童Bは地震発生の仕組みを図やイラストを用いて分かりやすく整理し、東日本大震災や能登半島地震を例に挙げながら説明していた。〈資料3〉



#### ③過去の大地震について調べ学習をする〈手立て1イ〉

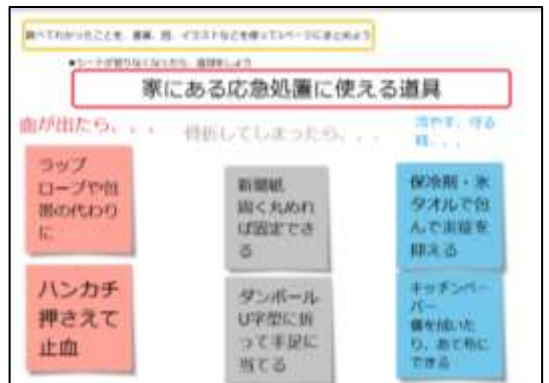
さらに地震災害を自分事として捉えられるよう、過去に日本で発生した大地震について調べ学習を行った。その際、児童が1時間の中で「個人目標」→「学習方法の決定」→「実践」→「振り返り」へと課題解決に向けて自走していけるように、毎時の振り返りシートを「マイ・ラーニングシート」として活用した。以下、毎時間の振り返りシートを「マイ・ラーニングシート」と表記する。発生した日時や規模、被害の様子、復興までの歩み、防災への教訓について調べた。また、さらに身近な問題へと目を向けるために、南海トラフ大地震全体の被害予想範囲、愛知県、岡崎市、学区へと情報を絞って調べた。児童の振り返りから、「東日本大震災よりも強い揺れが、岡崎市にも来るかもしれない。」「学校や、自分の家も損壊してしまうかもしれない。」と自分達の地域でも起こり得る災害として考えられることができていた。〈資料4〉



〈資料4〉児童Aのマイ・ラーニングシート

#### ④地震によって起こる被害やけが、応急処置を学ぶ〈手立て1ウ〉

「避難するという時に、もし友達が怪我をしていたらどうしたらいいだろう。」という児童のつぶやきや、前時までの振り返りから、地震によって起こりやすい怪我やその応急手当について調べ学習を行った。児童Aは骨折や切り傷、やけどなどの応急処置について調べ、身近にある物を活用して命を守る方法を学んでいた。〈資料5〉例えば、ビニール袋を三角巾の代わりにして骨折した腕を固定する方法や、ガラスが刺さった際の適切な応急処置について理解を深めた。その後、学んだ知識を実践に繋げるため、養護教諭と連携して応急手当の体験活動を実施した。児童は身近なものを使って友達に応急手当を行い、実際に方法を試すことで、知識だけでは



気付きにくい難しさや工夫について学ぶことができたと考えられる。体験活動では、「頭から血が出たらどう対応すればいいか」「やけどがひどい場合はどうすればいいか」など、児童が日頃から疑問に思っていたことを養護教諭に質問する場も設けた。「ビニール袋と新聞紙で骨折の固定ができることを学んだけど、いざという時は自分も怪我をしているかもしれないし、焦ってしまって上手にできないかもしれないから、大人を呼んでくる方が正しいかもしれない。」という児童Bの振り返りから、専門的な立場から具体的な説明を受けることで、応急手当は自己判断で行うだけではなく傷病の状況に応じて適切な対応や周囲への助けを求めることが重要であることが理解できたと考えられる。児童Aの「友達だけではなくて、低学年の子が怪我をしていた時にも学んだことが使えそう。困っていたら助けて一緒に逃げてあげたい。」という振り返りから、「自分にも人を助けることができる」という防災意識を高めることができたと言える。



〈資料6〉身近なものを使って骨折した腕を固定する体験

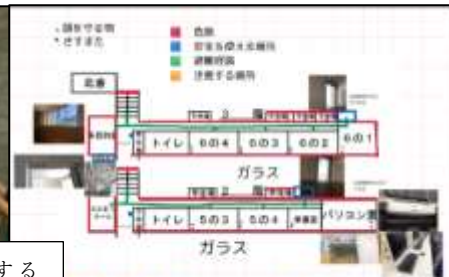
## 【整理・分析】【まとめ・表現】

### ⑥身の回りのリスクに気付くために、校内の危険を探して撮影し、オリジナル防災マップを作製する〈手立て2キ・ク〉

これまでの学習を生かし、「学校で地震が起きたらどこが危険なのか」「避難する際に役立つものは何か」という視点で校内を回り、危険箇所や避難時に活用できる設備を写真に撮影した。ガラスが多い場所や倒れてくる可能性のある物、消火器や避難経路などに着目して情報を集めた。収集した写真は「コラボノート」を活用してグループごとに共有し、意見を出し合いながらオリジナルの校内防災マップを作成した。



〈資料7〉校内の危険箇所を撮影する児童と、児童Aのチームの防災マップ



〈資料7〉。写真を用いて危険箇所や安全な場所を可視化することで、児童同士が根拠をもって話し合う姿が見られた。

例えば児童Aのグループでは、C1「僕とはにかく家庭科室とパソコン室が危険だと思う。だって、絶対火事になる。」C2「他にも、学校の中で火事になりそうところあるかな？」児童A「パソコンが多くて、機械が多い放送室や職員室じゃない？」C2「え、なんで？」児童A「だって、通電火災が起りやすそうだよな。」C1「それ、絶対校長先生に伝えた方がいいね！マップ見てもらいたい！」グループにしたことによって、互いに意見を出し合い、様々な被害が自分達で想定できるようになった。また、児童Aのように、仲間と対話することで新しい気付きを得ることができる児童も現れ始めた。活動後の振り返りでは、「普段何気なく使っている場所にも危険があることに気付いた」「避難する時に廊下のバケツが意外と使えることを知った」などの感想が見られた。自分達で作成した防災マップを通して、今までより幅広い視点で周囲の状況を判断しようとする力が身についてきたと考えられる。中には「これで、どんなことが起きても、自分達だけで安全に避難できる。」と記入している児童がいた。しかし、実際の揺れの中では、学習してきたことを必ずしも生かし切れるとは考え難い。そのことを踏まえ、次時からは、集めた情報が、実際の揺れの中で生かせるかどうか焦点を当て、課題を設定していく。

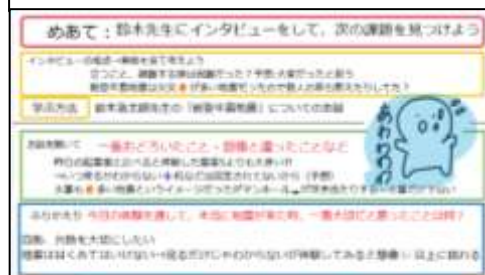
## 【課題の設定】

### ⑥熊本地震被災者、能登半島地震被災者の体験談を聞く〈手立て1エ〉

熊本地震及び能登半島地震の被災者の体験談を聞く活動を通して、これまで学習してきた防災の知識と、実際の災害現場との違いや課題について考えた。熊本地震の被災者の方とは、オンラインでビデオ通話を行い、〈資料8〉能登半島地震を経験した教諭とは、対面でインタビューを行った。児童は、避難所生活の苦労やライフラインの停止、人との助け合いの重要性など、インターネットや書籍の情報だけでは実感しにくい現実を知り、「知識があっても、実際には思うように行動できないことがある。」「日頃から備えておくことが大切だ。」といった気付きを深めていた。児童Bの、「地震は甘くみてはいけない。体験してみると想像以上に揺れる。自助・共助を大切にしたい。」という振り返り〈資料9〉から、自分を守るための「自助」と、地域や周囲の人と助け合う「共助」の重要性を改めて実感し、自分自身や家庭、地域で今後取り組むべき課題について主体的に考える姿が見られた。被災者の生の声に触れたことで、



〈資料8〉熊本地震で被災された方にオンラインでインタビューをする様子



〈資料9〉児童Bのマイ・ラーニングシート

防災を自分事として捉える意識が高まり、防災学習で身に付けた知識を実生活に繋げようとする態度を育むことができた。

#### ⑦起震車で震度2～7の揺れを体験する〈手立て1オ〉

さらに地震の揺れを実感し、防災を自分事として捉えられるよう、起震車による地震体験を実施した。〈資料10〉児童は震度2から震度7までの揺れを実際に体験し、震度が大きくなるにつれて身動きが取りにくくなることや、安全を確保することの難しさを実感していた。振り返りでは、「震度7は想像以上に大きな揺れだった」「机がない場所ではどのように身を守ればよいかわからない」「まだ知らないことがたくさんあるのでもっと防災について学びたい」といった記述が多く見られた。〈資料11〉起震車の体験を通して、これまで学習してきた知識だけでは十分ではないことに気づき、防災についてさらに学び続ける必要性を実感するとともに、災害への備えを自分自身の課題として捉える姿が見られた。



〈資料10〉起震車を体験する様子

〈資料11〉児童A(左)児童B(右)のマイ・ラーニングシート

体験してみて 一番おどろいたこと・想像と違ったことなど

6階建てで揺れるし、最初もまだ低いのに結構揺れて驚きました。椅子が浮いて、倒れそうだったけど、重しがついていたら、倒れたり浮かなかったらいいなとおもいました。もし、本当に起きたら机に引っ張れるのかなと思いました。起震車は、本物よりも弱いと高永さんが昨日言っていたので本当だったら

ふりかえり 今日の体験を通して、本当に地震が来た時、一番大切だったことは何？

すぐに、机の下へ潜って机の足をまたないとどっかに行っちゃうし、机が傾いたりして、頭を打ってしまうかもだし、最悪命を落としてしまう可能性がある。だからちゃんと計画的に動かないと、なぜそう思ったかというところ、起震車でそんな動かない早く命を守らないと、命は一つしかないから。本当に地震で命を落としたり後悔する。

次に向けて さらに調べておかなければならないこと・知っておくべきことって何だろう？

家で一人にいる時どのような行動を取るのが正解か？公園にいる時何がな—いつて時どうするか？どういう時に避難するのが正解なのか？「いつ」「どこで」「何をしている」時がわからないから行く場所の避難場所を知りたい。

体験してみて 一番おどろいたこと・想像と違ったことなど

意外と震度が強くて驚いたけど今回は固定されてたから動かずに捕まっていたけど、普通の教室や家の机では上下左右に動いたり今日よりもっと揺れが大きいので震度7がいえなどで起きたら心配きたら多分机に引っ張られたりするだろう

ふりかえり 今日の体験を通して、本当に地震が来た時、一番大切だったことは何？

すぐに机の下に潜り込んで机の足を力いっぱい握って机がどこかへ行かないようにする。そして地震が起きてもフーワーキヤーキヤー機がすぐに動く。→いつ起こるかかわからない=色々と家具を固定したりして対策をする→なかったら家具などが落ちてきて下敷きになるので地震が起きてから固定するのは遅い→すぐにする

次に向けて さらに調べておかなければならないこと・知っておくべきことって何だろう？

地震が起きた時教室や家の中しか調べてないから廊下や公園、運動場などの机がない時の対処法を調べたい

#### 【情報収集】

#### ⑧課題を解決するために、さらに必要な知識について調べ学習をする

生まれた疑問や課題を基に、自分でテーマを設定して調べ学習をする時間を設けた。児童は災害時の身の守り方や避難行動などについて必要な情報を収集し、自分なりの考えを深めていった。児童Aと児童Bの学習後の振り返りでは、「まずは落ち着いて、自分で考え行動することが大切だ」「命を守るためには日頃から知識を身に付けておく必要がある」といった記述が見られた。〈資料12〉これらから、児童は防災を単なる知識として学ぶのではなく、自分自信の命を守るための行動として捉えられるようになったことがわかる。しかし、「知識」がいざという時に咄嗟の判断につながるかどうかは、実践してみないことにはわからない。よって、情報収集の段階で得た知識が活かせるかどうかを試すシミュレーションを行うことにした。

〈資料12〉児童A(左)児童B(右)のマイ・ラーニングシート

ふりかえり 今まで自分が調べたことをふりかえって、「学校で地震がおきたときに」

一番大切だと思うことは？

私が一番、大切だと思うのは、叫ぶのではなく落ち着いて「命最優先」をし、お・は・し・ちをして落ち着いて避難するのが一番大切だと思いました。

理由は、命は一つしかないし、おはしちをしなれば大事は指示が聞こえず、安全にちゃんと避難できない可能性がある。もし、おはしちしたら、その押した人の命を奪うかもしれない。走ってガラスのかけらにつまずいて、怪我をして、それで命を落とす可能性が0ではないから、避難訓練でもやっているように、もし本当に地震が来たら自分が落ち着いて、おはしちを守って欲しいと思います!!

次に向けて 今日まで、調べたり、お話を聞いたり、体験してきたことをどう生かしたい？

本当に地震が来たら、これまで地震のことを学んできたからこそある知識を思い出しながら、行動に移したい!

ふりかえり 今まで自分が調べたことをふりかえって、「学校で地震がおきたときに」

一番大切だと思うことは？

わたしが一番大切だと思うことは、まずは、あせらず、よく自分で考えて行動することだと思います。理由は、この学校には、たくさんの人がいるから、そのたくさんの人が、あせって、パニックになったら、指示も通らなくなってしまうから、やっぱり落ち着いて、よく自分で考えて行動することだと思います。

次に向けて 今日まで、調べたり、お話を聞いたり、体験してきたことをどう生かしたい？

もしも、南海トラフ巨大地震や、地震が起きたら、学校以外の場所でも、色々な人のじくになって、行動したい!

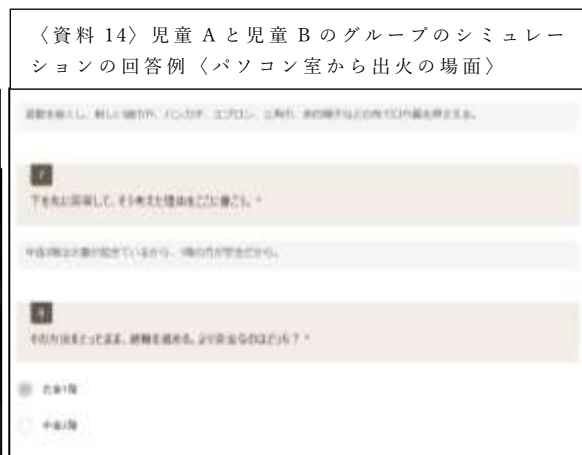
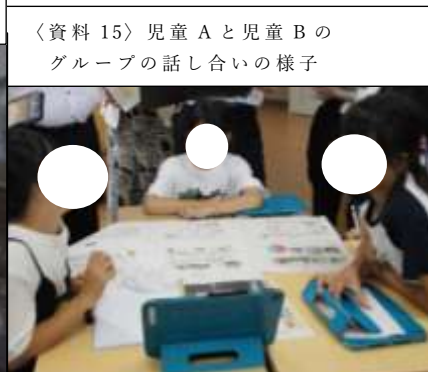
#### 【整理・分析】【まとめ・表現】

#### ⑨情報収集の段階で得た知識やオリジナル防災マップなどの作成物などを基に、脱出型避難シミュレーションを行う。

##### 〈手立て1カ〉

児童が災害時に知識を活用し、自ら判断して行動できる力を育成するため、多様な状況を設定した避難シミュレーションを実施した。QRコード〈資料13〉を読み取ると、各状況の写真と、答えによって道筋が変わる分岐式の問題が出てくる仕組みである。これまでの学習で作成した校内防災マップや防災辞書を活用しながら「地震発生時に放送が流れなかったらどう行動するか」「負傷者がいたらどう対応するか」など、実際の災害場面を想定した課題についてグループで話し合い、最適な避難方法を考えた。さらに、グループで考えた回答を一度個人で読み直し、他者の考えと比較する時間を設けることで、自分達の判断を見直す機会を設けた。児童AとBのグループでは、以下のような話し合いが行われていた。(児童AとBは同グループ)〈パソコン室からの出火で、避難経路に黒煙が立ち込めている場面〉児童B「有毒ガスを吸わないようにするためには、どうしたらいいかな。」C3「とにかくハンカチで鼻と口をふさぐことが大切だね。」児童B「Aはどう思う？」児童A「…姿勢を低くして、上に溜まるガスを吸わないことも大切だと思う。」児童B「じゃあ、姿勢を低くすることと、ハンカチで口と鼻を押さえて進もう。他に何か使えるかな？」〈資料14〉まず、児童Aにおいては、他者の意見や考えを聞いたうえで、自分なりの考えを伝える様子が見られた。また、児童Bは他者の考えをつな

ぎながら、グループで協力して判断していこうとする姿が見られた。〈資料 15〉しかし、この時間の中（20 分間）で避難完了までできたチームは、9 チーム中 1 チームもなかった。よって、今まで児童達は多くのことを学習してきたことは、いざという時にはなかなか思い出せなかったり、恐怖心やパニックで判断から行動に移すのに時間がかかってしまったりすることを体験した様子であった。この手立てにより、児童は「正解を覚える」のではなく、状況に応じて必要な情報を選択し、仲間と協働しながら最適な行動を判断する姿が見られた。また、避難後の課題や新たな疑問にも気付き、「さらに調べたい」という意欲につながるなど、今までよりさらに自分事として捉えながら主体的に学ぶ姿勢を育むことができた。児童 A と児童 B のマイ・ラーニングシートには、〈資料 17〉「自分だけではなくて、周りの人達と協力して安全に避難することが大切だ」「知っているだけではなくて、それがいざというときに生かせることが大切だ」と記入があった。児童 A は今回の題材を通し、一人で解決しようとしていた傾向から変化し、仲間と対話し、協働しながら課題を解決しようとする力が育まれていると考えられる。児童 B は今回の題材を通し、得た知識を理解・定着させ、実際の場面で活用できる力は大切であることに気付いていると考えられる。



| 〈資料 15〉児童 A (左) と児童 B (右) のマイ・ラーニングシート                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>自分なりのシミュレーションの点数 <b>72</b> /100点</p> <p>その点数にした理由</p> <p>自分でも予想していなかった問題などがいっぱい起きたから、自分で言ったことも正しいのかわからないし、本当に起きたらそれではいけないと思った</p> <p>から。</p> <p>だから、実際に地震が起きたとき「わたしたちだけで安全に」避難するためには</p> <p>自分1人だけじゃなくて、周りにいる仲間たちと助け合って、協力して、安全に避難すること</p> <p>まずは落ち着き、命最優先</p> <p>が大切だと思う。</p> | <p>自分なりのシミュレーションの点数 <b>75</b> /100点</p> <p>その点数にした理由</p> <p>できる限りのことをしたけど、地震は本当にいつ起こるかわからないから、しっかりとした手当てや、対応ができなかったから、知っていることを知っているだけではきっと役に立たないと思う</p> <p>から。</p> <p>だから、実際に地震が起きたとき「わたしたちだけで安全に」避難するためには</p> <p>ただ知っておくことだけではなく、思い合ってケガをしている子を考えることや、知っていたことをしっかりと生かすこと</p> <p>が大切だと思う。</p> |

## 5 研究のまとめと考察

本研究では、児童が「被災時に起こり得る課題を見だし、命を守るためのよりよい行動について考え、追究する力」「他者と協働的に取り組み、異なる意見を生かしながら、未知な状況に対して乗り越えようとする力」を育むことを目指し、ICT 等を活用しながら防災学習を展開した。単元の導入では、地震に関する知識を調べる活動を通して、防災の興味・関心を高めた。その後、校内防災マップづくりでは、校舎内の危険箇所や避難に役立つ場所を自ら撮影し、協働してマップを作成することで、学校を「安全に避難するための場所」という視点で捉え直すことができた。

さらに、熊本地震や能登半島地震の被災者の体験談や起震車体験では、これまで学習してきた知識と実際の災害現場との違いを実感し、「自助・共助」の重要性や、災害時には落ち着いて判断することの必要性に気付く姿が見られた。児童の振り返りには、「学校以外でも学んだことを生かしたい」「実際に地震が起きたら学んだことを生かして行動したい」といった記述が多く見られ、防災を自分事として捉える意識の高まりがうかがえた。

また、疑問や課題を基にした調べ学習や、多様な状況を想定した避難シミュレーションでは、これまでに身に付けた知識を根拠として判断し、仲間と協働しながらより安全な避難方法を考える姿が見られた。知識を覚えるだけでなく、状況に応じて活用し、自ら考え判断する力の育成にもつながったと考える。

一方で、本研究（1 学期）で扱った内容は学校生活を中心とした防災であり、地域とのつながりや社会全体で取り組む防災について考えることはまだ行っていない。今後は、学校という身近な場で身に付けた防災意識を地域へと広げ、地域の防災マップづくりや防災訓練への参加、地域住民との交流などを通して、自分達にできることを考え、実際の行動へつなげていく学習へ発展させたい。そして自分や周囲の命を守るだけでなく、地域や社会の安全に主体的に参画しようとする児童を育てていきたい。